

私立大学社会科学系学部におけるオンライン授業の授業改善アンケートを用いた評価

谷口 るり子*

Assessing Online Classes in Social Science Department at Private University Using a Class Improvement Survey

Ruriko TANIGUCHI*

1. はじめに

2020年4月から始まった大学の授業の多くは、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大のため、全国的にオンライン授業を活用せざるを得なくなった。全国の国立・公立・私立大学と高等専門学校を対象とした文部科学省の調査によると、2020年5月20日時点で、遠隔授業のみを実施していた大学などは90.0%、面接・遠隔授業を併用していた大学などは6.8%で⁽¹⁾、ほとんどがオンライン授業を活用していた。7月になると遠隔授業のみの割合は減少した⁽²⁾が、オンライン授業を活用していた大学などの割合は依然として高かった。甲南大学でも事情は同様で、2020年度前期は多くがオンライン授業となった。

大学におけるWebを活用した授業自体はコロナ禍以前から存在し、eラーニングと呼ばれてきた。これは基本的にはオンデマンド型の授業で、取り入れたい教員が活用してきた。これに対し2020年度のコロナ禍における大学のオンライン授業は、時期によってはこれ以外の選択肢がなかった。教員にとって選択肢がオンライン授業しかなかっただけではなく、学生にとってもすべての授業で選択肢はオンライン授業しかなかった。ただ、授業形態はオンデマンド型だけではなくリアルタイム型もあった。

2020年度の大学におけるオンライン授業については、受講した学生に対するアンケート調査がさまざま

な大学で実施された。

- ・国際基督教大学では、全学部生・大学院生を対象に2020年5月に「2020年春学期オンライン授業に関する学生アンケート」を実施⁽³⁾
- ・城西大学では、全在生を対象に2020年6月に「オンライン講義に関する学生アンケート」を実施⁽⁴⁾
- ・北星学園大学では、2020年6月～7月に「非対面授業下における学習状況調査」を実施⁽⁵⁾
- ・帝京大学では、大学・短期大学の正規生を対象に2021年1月～2月に「2020年度秋期オンライン授業調査」を実施⁽⁶⁾

これらの調査のすべてで挙げられたオンライン授業のメリットは「オンデマンド授業は自分のペースで学習できる」、「オンデマンド授業は復習が何度でもできる」の二つであり、「自宅で学習できる・通学する必要がない」⁽³⁾⁽⁴⁾、「感染症への不安が軽減される」⁽³⁾などのメリットを挙げたものもあった。これに対してオンライン授業のデメリットは、「教員とのコミュニケーションが取りにくい・質問しにくい」^{(4)~(6)}、「友達と一緒に学べないので寂しい・つまらない」⁽³⁾⁽⁴⁾、「モチベーションの維持が難しい」⁽³⁾、「長時間PC、タブレット、スマホ画面を見るので疲れる」⁽³⁾、「講義のペースがつかみづらい」⁽⁴⁾などが挙げられていた。

このようにオンライン授業そのものに対する評価は先行研究のアンケート調査結果^{(3)~(6)}から得られているが、本研究では対面授業とオンライン授業の学生

* 甲南大学マネジメント創造学部 (Hirao School of Management, Konan University)

受付日: 2022年12月15日; 再受付日: 2023年3月27日; 採録日: 2023年6月12日